

壁紙の品質規格と安全性

当見本帳収録壁紙は、SV規格やJIS規格に適合し、且つ、シックハウス対策規制を受けない「F☆☆☆☆」ですので、安心してご使用頂けます。

SV規格とJIS規格について

SV規格 Standard Value（壁紙製品標準規格） 快適・健康・安全に配慮した製品を供給することを目的として壁紙工業会によって制定された自主規格です。	JIS規格（壁紙：JIS A 6921） Japanese Industrial Standards（日本工業規格） 日本の工業製品の品質安定を目的とした工業標準化法に基づき制定された国家規格です。
---	---

項目NO.	試験項目			SV規格	JIS規格
				規格値	規格値
1	退色性(号)			4以上	同左
2	摩擦色落ち度(級)	乾燥摩擦色落ち度	縦	4以上	同左
			横	4以上	同左
		湿潤摩擦色落ち度	縦	4以上	同左
			横	4以上	同左
3	隠ぺい性(級)			3以上	同左
4	施工性			浮き及びはがれがあってはならない	同左
5	湿潤強度(N/1.5cm)		縦	5.0以上	同左
			横	5.0以上	同左
6	ホルムアルデヒド放散量 (mg/L)			0.2以下	同左
7	重金属	砒素 (mg/kg)		5以下	－
		鉛 (mg/kg)		30以下	－
		カドミウム (mg/kg)		5以下	－
		クロム (mg/kg)		20以下	－
		水銀 (mg/kg)		2以下	－
8	塩化ビニルモノマー (mg/kg)			0.1以下	－
9	残留VOC	TVOC (μg/g)		100以下	－
		TEX芳香族 (μg/g)		10以下	－

(使用原材料)

10	安定剤	鉛、カドミウム、有機スズを含有する安定剤は使用しない。	—
11	可塑剤	沸点が300℃以上の難揮発性可塑剤を使用する。ただしDBPは使用しない。	—
12	発泡剤	フルオロカーボン類は使用しない。	—
13	溶剤	TEX(トルエン、キシレン、エチルベンゼン)は使用しない。	—

- 上表は、各規格の規定内容を簡略化して一覧にしたものです。項目1～6は、両規格とも同じです。
SV規格は、JISの基本品質に、より安全性を考慮して重金属やVOCなどの規定が加えられています。
- JIS規格・SV規格の内容は、社会情勢の変化によって随時改定されます。
- SV規格の詳細につきましては壁紙工業会ホームページ(<http://www.svkikaku.gr.jp>)をご参照ください。

ホルムアルデヒド発散速度性能に基づく、壁紙の種類区分について

ホルムアルデヒド発散速度に応じて4つの種別に区分されますが、「JIS認証」あるいは「大臣認定」を取得したF☆☆☆☆壁紙は「規制対象外」の建築材料として、面積制限を受けることなく、ご使用頂けます。

告示で定める建築材料の性能区分	規制対象外 (第1～第3種よりも上位の性能を備えた建築材料)	ホルムアルデヒド発散建築材料		
		第3種	第2種	第1種
ホルムアルデヒド放散速度 (チャンバー法数値)	5μg/m ² h以下	5μg/m ² h超～20μg/m ² h以下	20μg/m ² h超～120μg/m ² h以下	120μg/m ² h超
ホルムアルデヒド対策マーク(等級区分)	F☆☆☆☆	F☆☆☆	F☆☆	対策マーク表示不可
壁紙の種類	JIS認証 大臣認定	—	—	—
内装仕上の制限	使用制限なし	使用面積が制限される		使用禁止

防火認定制度と見本帳表示について

防火材料について

■防火材料の認定と防火壁装材料

防火材料とは、不燃、準不燃、難燃の性能区分に応じて国土交通大臣が定めた材料または認定した材料のことです。

- ・国土交通大臣が定めた材料とは、建築基準法令等に基づいて告示に具体的な名前をあげて防火性能があるとされた材料です。
- ・国土交通大臣が認定した材料とは、法令等に基づいて国土交通省の指定する性能評価機関で評価し、防火性能があると国土交通大臣から認められた材料です。

防火壁装材料とは、国土交通大臣の認定を受けた壁紙のことです。但し、壁紙・下地・施工方法の組合せによって得られた防火性能により認定を受けておりますので、同じ壁紙でも、下地や施工方法によって防火性能が異なる場合があります。また、防火壁装材料としての性能確認は、告示第1400号・1401号に示された防火材料との組合せで行なわれておりますので、下地基材は国土交通大臣が定めた防火材料で、且つ認定仕様に定められた内容・施工方法である必要があります。

■国土交通大臣が定めた防火材料

(1) 不燃材料(建設省告示第1400号ならびに国土交通省告示第1178号による改正)

通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後20分間燃焼せず、防火上有害な変型、溶融、き裂その他の損傷を生じないもので、かつ避難上有害な煙又はガスを発生しないもの。

せっこうボード(厚さ12mm以上)、モルタル、繊維混入珪酸カルシウム板(厚さ5mm以上)、コンクリート、れんが、瓦、陶磁器質タイル、繊維強化セメント板、ガラス繊維混入セメント板(厚さ3mm以上)、鉄鋼、アルミニウム、金属板、ガラス、しっくい、石、ロックウール板、グラスウール板

(2) 準不燃材料(建設省告示第1401号 平成12年5月30日)

通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後10分間燃焼せず、防火上有害な変型、溶融、き裂その他の損傷を生じないもので、かつ避難上有害な煙又はガスを発生しないもの。

不燃材料、せっこうボード(厚さ9mm以上)、木毛セメント(厚さ15mm以上)、硬質木片セメント板(厚さ9mm以上、かさ比重0.9以上)、木片セメント板(厚さ30mm以上、かさ比重0.5以上)、パルプセメント板(厚さ6mm以上)

※不明な点は、建築主事にご確認ください。

防火性能一覧表

■下表は、当見本帳収録壁紙の防火種別と、施工する下地の種類および施工方法との組合せによって得られる防火性能を示したものです。

※防火種別とは、防火管理を目的として日本壁装協会が分類し設定した番号です。

防火種別	下地別の防火性能(施工方法:直張り)				収録商品	商品数
	不燃材料	不燃石膏ボード	準不燃材料	金属板		
1-4	不燃	不燃	準不燃	不燃	ビニル壁紙(汚れ防止以外)	185
1-6	不燃	不燃	準不燃	—	ビニル壁紙(汚れ防止)	65

■壁紙との組み合わせで防火認定取得可能な施工下地の代表例

- ・不燃材料……………告示第1400号の「厚さ5mm以上の繊維混入珪酸カルシウム板」「モルタル」
- ・不燃石膏ボード ……告示第1400号の「厚さ12mm以上の石膏ボード」
- ・準不燃材料……………告示第1401号の「厚さ9mm以上の石膏ボード」
- ・金属板……………告示第1400号の「金属板」(アルミニウム除く)

防火壁装材料の認定共同管理について

日本壁装協会において防火壁装材料の「認定共同管理」を開始しています。「認定共同管理」とは、これまでの製造会社や販売会社が取得した防火認定《企業個別認定》とは別に、日本壁装協会が新たに防火認定を取得し、壁紙業界が共同で防火上の品質管理を行なうもので、「類似認定の集約・合理化」「品質やコンプライアンスの更なる向上」を目的としています。

当見本帳収録のビニル壁紙は全てこの《共同認定》となっておりますが、それ以外の壁紙では、今後認定の集約・合理化に伴い、商品の防火認定番号及び防火種別が変更になる場合がありますので、日本壁装協会の「壁紙品質情報検索システム」で最新の情報をご確認ください。

防火認定情報とシックハウス対策壁紙の登録確認書発行について

日本壁装協会の壁紙品質情報検索システムでは、防火認定情報と共にシックハウス対策情報も確認でき、商品の登録確認書が取得できますので、是非ご活用ください。

<http://www.wacoa.jp/Hekisou/>

日本壁装協会 検索

特殊建築物等			対象となる規模等				制限	
			耐火建築物	準耐火建築物(イ)	準耐火建築物	その他の建築物	居室等	通路・階段等
特殊建築物	1	劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場	客席の床面積の合計が400㎡以上のもの	客席の床面積の合計が100㎡以上のもの			壁・難燃以上（床面上1.2m以下除く） 天井・難燃以上（3階以上に居室を有するものは準不燃以上）※3	壁・天井とも準不燃以上※3
	2	病院、ホテル、旅館、下宿、共同住宅、寄宿舎(※1)、児童福祉施設等	3階以上の部分の床面積の合計が300㎡以上のもの〔100㎡(共同住宅は200㎡)以内に防火区画されたものは除く〕	2階の部分の床面積の合計が300㎡以上（病院はその部分に患者の収容施設がある場合に限る）のもの	床面積の合計が200㎡以上のもの			
	3	百貨店、マーケット、展示場、キャバレー、カフェー、ナイトクラブ、バー、ダンスホール、遊技場、公衆浴場、待合、料理店、飲食店又は物品販売業を営む店舗(床面積10㎡以内は除く)	3階以上の部分の床面積の合計が1,000㎡以上のもの	2階の部分の床面積の合計が500㎡以上のもの	床面積の合計が200㎡以上のもの			
	4	自動車車庫、自動車修理工場、映画スタジオ又はテレビスタジオ	全 部				壁・天井とも準不燃以上※3	壁・天井とも準不燃以上※3
	5	地下又は地下工作物内に上記1、2、3の用途の居室を有するもの						
建築物の規模	6	階数が3以上で延べ面積が500㎡を超えるもの	〔学校等(※2)を除く。耐火建築物又は準耐火建築物(イ)の高さ31m以下で100㎡以内に防火区画された特殊建築物に供さない居室を除く。本表2欄の高さ31m以下の部分には適用しない。〕				難燃以上 壁(床面上1.2m以下除く) 天井とも ※3	壁・天井とも準不燃以上※3
		階数が2で延べ面積が1,000㎡を超えるもの						
		階数が1で延べ面積が3,000㎡を超えるもの						
無窓	7	窓その他の開口部を有しない居室(天井の高さ6mを超えるものを除く)	床面積が50㎡を超える居室で窓等開放できる部分(天井から下方80cm以内の部分に限る)の面積の合計が床面積の1/50未満のもの				壁・天井とも準不燃以上※3	壁・天井とも準不燃以上※3
			温湿度調整を必要とする作業室等(法第28条第1項)					
調理室等	8	調理室、浴室その他の室で、かまど、こんろ、その他火を使用する設備又は器具を設けたもの	主要構造部を耐火構造としたものを除く	階数2以上の住宅(事務所、店舗兼用を含む)の最上階以外の階に火を使う設備を設けたもの			壁・天井とも準不燃以上※3	
				住宅以外の建築物の火を使う設備を設けたもの				

（除外規定）上表各欄の制限は、スプリンクラー等自動式のもの及び令126条の3の規定に適合する排煙設備を設けた部分には適用されません。

防火区画	9	建築物の11階以上の部分 200㎡以内に防火区画 された共同住宅住戸には 適用しない	100㎡以内に防火区画	スプリンクラー等自動式のものを 設置すれば区画は2倍に拡大できる		
			200㎡以内に防火区画(特定防火設備とすること)		壁・天井とも 準不燃以上	壁・床面上 1.2m以下 除く
			500㎡以内に防火区画(特定防火設備とすること)		壁・天井とも 不燃	
	10	地下街	100㎡以内に防火区画			
			200㎡以内に防火区画(特定防火設備とすること)		壁・天井とも 準不燃以上	壁・床面上 1.2m以下 除く
			500㎡以内に防火区画(特定防火設備とすること)		壁・天井とも 不燃	

- ①回り縁、窓台、その他これらに類するものは内装制限から除かれています。
- ②法令の定めによって設けられる避難階段、特別避難階段は、下地とも不燃材で仕上げることとなります。
- ③内装制限の適用が重複してかかる場合は、法令で規定ある場合を除いては制限の厳しい方が適用されます。
- ④この一覧表は概要をまとめたものですから、詳細は法令の本文を参照してください。
- (平成5年6月25日施行)

※1 下宿、共同住宅、寄宿舎の、準耐火建築物（令第115条2の2第1項第1号の技術基準に適合するもの。1時間耐火）は、耐火建築物とみなされる。

※2 学校、体育館、ボーリング場、スキー場、スケート場、水泳場又はスポーツの練習場。

※3 その仕上げに準ずるものとして国土交通大臣が定める方法により国土交通大臣が定める材料の組合せによってしたもの。

商品・機能説明



消臭 -ハイブリッド光消臭 エアリフレ・ウォール-

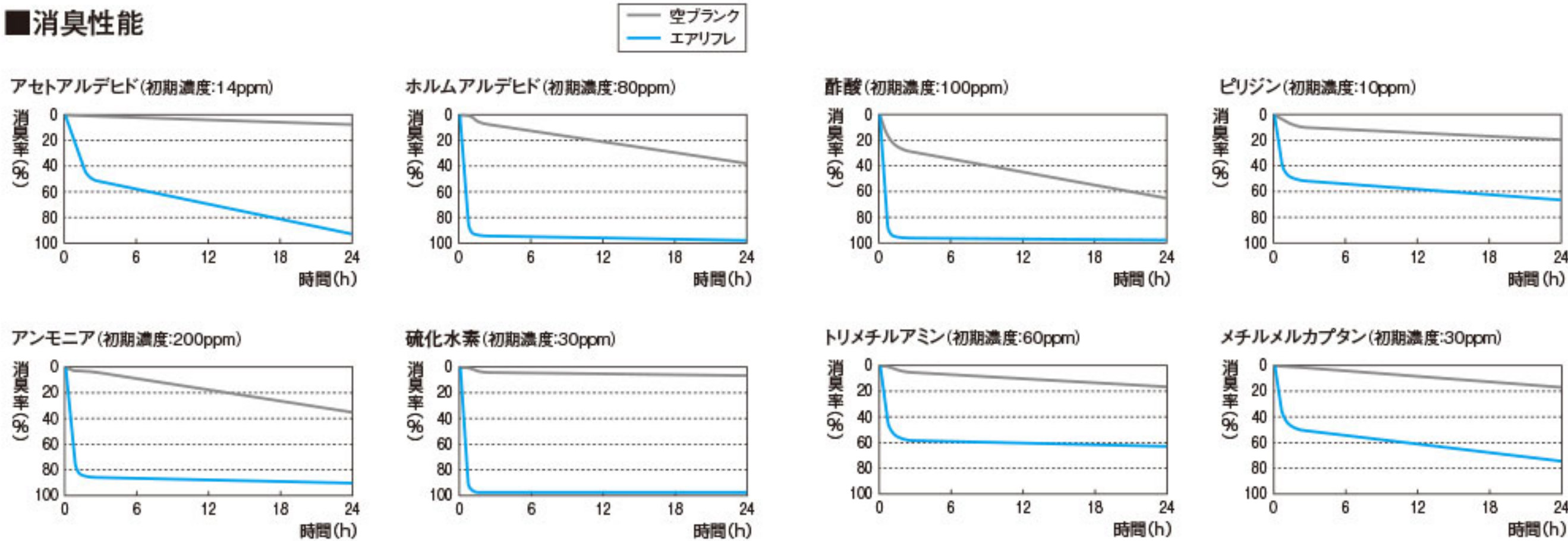
air*refre

●光触媒と消臭剤のハイブリッドで24時間消臭!抗菌効果もありますので、清潔な環境づくりに最適です。

●様々な悪臭を消臭!

- ・ペットの臭い、トイレの臭い(アンモニア・硫化水素)
- ・汗の臭い(アンモニア・酢酸)
- ・生ゴミなどの生活悪臭(アンモニア・硫化水素・トリメチルアミン・メチルメルカプタン)
- ・タバコの臭い(アセトアルデヒド・酢酸・硫化水素・ピリジン)
- ・新築・リフォーム時の建材臭(ホルムアルデヒド)

■消臭性能



【試験方法】

蛍光灯照射下、壁紙サンプルを容器に入れ各悪臭成分を注入。所定時間後、各悪臭成分の残存ガス濃度を測定。比較対象として、サンプルを入れず空(グラフ中は空ブランクと表示)で悪臭成分を測定。

■使用上のご注意

- ・消臭機能は臭いを完全になくすことを保証するものではありません。臭いの感じ方には個人差があり、効果は環境によって異なります。
- ・光触媒による消臭機能の持続性は理論的には半永久的ですが、汚れの付着等により効果が低減する可能性があります。
- ・時々ハタキをかけたり、電気掃除機などでホコリを吸い取るなどのメンテナンスを行ないながら、美観維持のためにも5～10年位での張替えをおすすめします。



トップコート

- 壁紙表面への撥水トップコートで、一般ビニル壁紙に比べ汚れが付きにくくなっています。
- 水汚れを水玉状にはじきますので、拭き取りやすい特長もあります。
- 表面が滑らかなため、施工時のハケさばきがよく、施工糊も拭き取りやすくなっています。

■撥水比較



■特性比較

	汚れ防止壁紙	トップコート壁紙	一般ビニル壁紙	自然素材系壁紙
汚れのつきにくさ	◎	○	△	×
汚れの落ちやすさ(付着直後)	◎	○	△	×
汚れの落ちやすさ(長時間経過後)	○	△	△	×
施工しやすさ	△	◎	○	×

■使用上のご注意

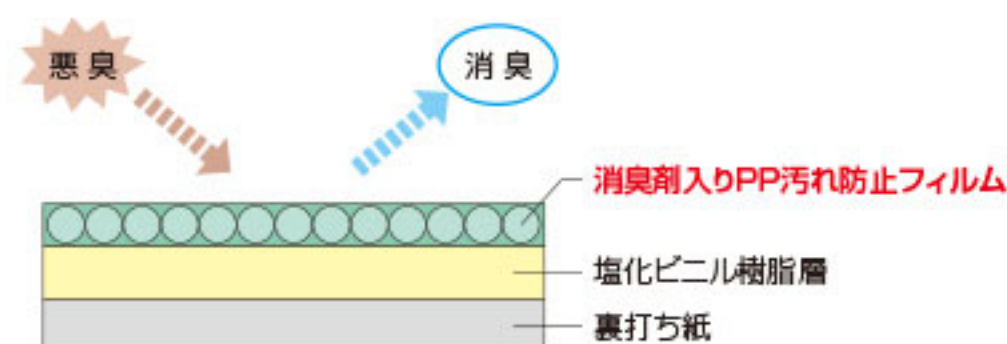
- ・一般のビニル壁紙に比べ汚れにくくなっていますが、壁紙業界規格の「汚れ防止」に合格する性能には至りません。表面のコート層が汚れ防止フィルムのように完全な膜ではなく、細かい点の集合体になっているため、時間の経過と共に壁紙内部に汚れが浸透してしまうからです。
- ・飲食物や調味料などの水汚れは、乾く前に直ちにかたく絞ったスポンジやタオルで汚れを吸い取るように拭き取ってください。
- 一旦乾いて固着してしまった飲食物のしつこい汚れや、クレヨンなどの頑固な油汚れは、一般ビニル壁紙同様落とすことができません。汚れ落ち性能を重視する場合はフィルム加工された「汚れ防止」壁紙をご使用ください。



消臭＋汚れ防止

- 消臭剤入りのPP(ポリプロピレン)フィルムを壁紙表面にラミネートした、消臭効果があり汚れも拭き取りやすい壁紙です。
- PPフィルムは水汚れに特に強いので施工糊も拭き取りやすく、柔軟なため「スーパー強化＋汚れ防止」より施工しやすい特長があります。
- 抗菌効果もありますので、清潔な環境づくりに最適です。

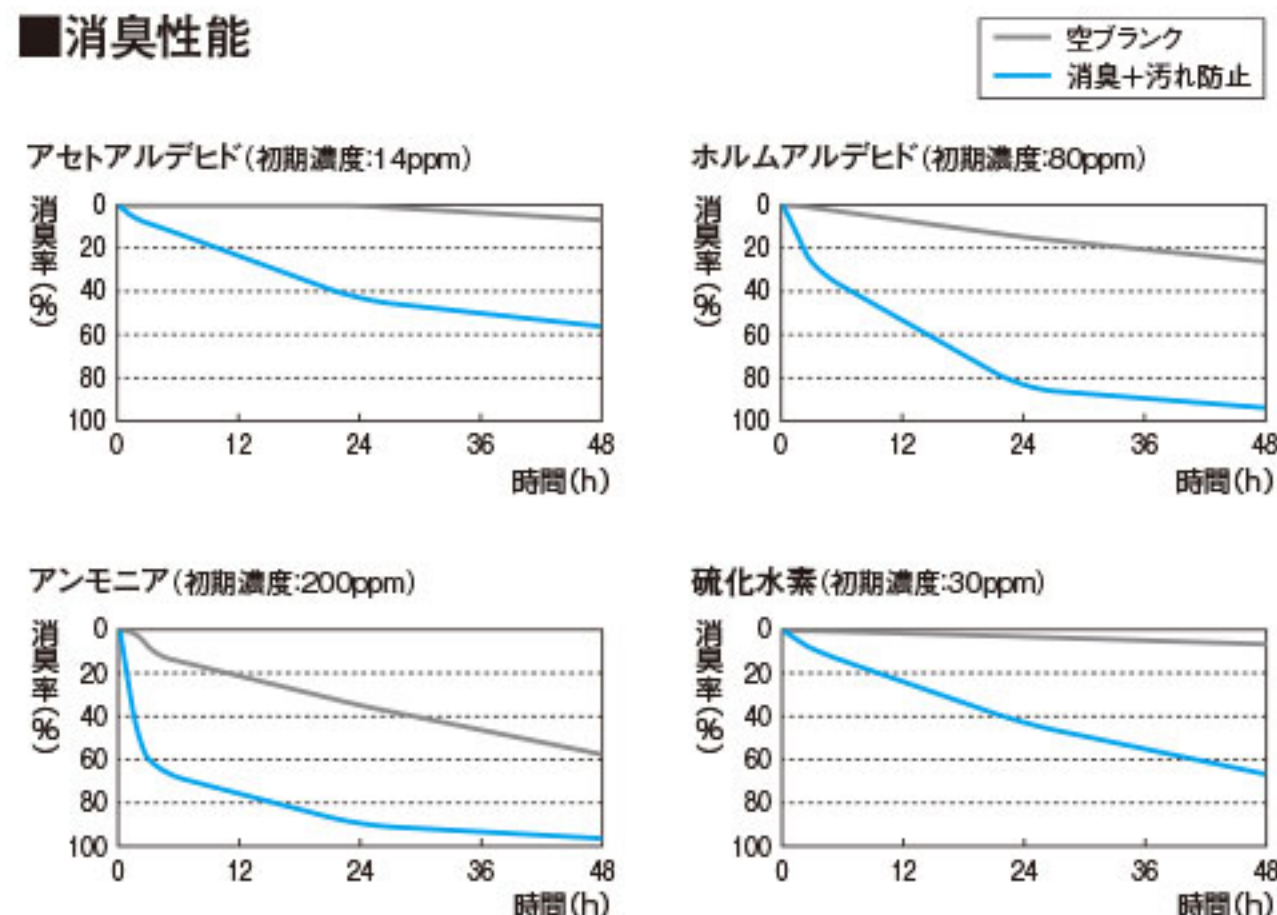
■消臭＋汚れ防止壁紙の構造 (イメージ図)



■様々な悪臭を消臭！

- ・ペットの臭い、トイレの臭い(アンモニア・硫化水素)
- ・汗の臭い(アンモニア・酢酸)
- ・生ゴミなどの生活悪臭(アンモニア・硫化水素・トリメチルアミン・メチルメルカプタン)
- ・タバコの臭い(アセトアルデヒド・酢酸・硫化水素・ピリジン)
- ・新築・リフォーム時の建材臭(ホルムアルデヒド)

■消臭性能



《試験方法》

壁紙サンプルを容器に入れ、悪臭成分を注入。所定時間後、悪臭ガス成分の残存ガス濃度を測定。比較対象として、サンプルを入れず空(グラフ中では空ブランクと表示)で悪臭成分を測定。

■汚れ防止性能

●汚れ落ち比較



●汚れ防止性能試験結果

汚れの種類	除去剤	消臭＋汚れ防止壁紙	一般ビニル壁紙
コーヒー	水	◎	○～×
醤油	水	◎	○～×
水性サインペン	中性洗剤	◎	△～×
クレヨン	中性洗剤	○	△～×

《試験方法》

壁紙工業会制定「汚れ防止壁紙性能規定」に準拠。汚染物付着24時間経過後に除去剤で拭き取り、判定基準に従って目視で判定。

《判定基準》

- ◆4級以上を「汚れ防止」とする。
- ◎：(5級)汚れが残らない
- ：(4級)ほとんど汚れが残らない
- △：(3級)やや汚れが残る
- ×：(2級)かなり汚れが残る
- ××：(1級)汚れが濃く残る

■使用上のご注意

- ・消臭機能は臭いを完全になくすことを保証するものではありません。効果は環境によって異なりますが、5～10年間程度とお考えください。美観維持のためにも5～10年位での張替えをおすすめします。(消臭機能は、ハイブリッド光消臭・エアリフレとは異なります。)
- ・汚れを拭き取る際は、かたく絞ったスポンジやタオルなどで水拭きしてください。落ちにくい場合は中性洗剤をご使用ください。歯ブラシでこすると効果的です。
- ・表面のフィルムが破損すると、その部分の汚れ防止機能は失われます。拭き取る場合はできるだけ柔らかい布やブラシなどをご使用ください。また、何度も拭き取ることによって目に見えない微細な傷がつき、次第に汚れ防止性能は低下していきます。
- ・油性マジックやボールペンにはアルコール(消毒用)が有効ですが、汚れを軽減することはできても完璧に落とすことは困難です。
- ・強い洗剤や溶剤によっては変色を起こすことがありますので、念のため、あらかじめ目立たないところで試してからにしましょう。
- ・洗剤の拭き残しは変色の原因になります。拭き掃除が終わり次第、必ずきれいな真水かぬるま湯で洗剤が残らないように拭き取ってください。
- ・張り合わせ部分に水が入るとハガレの原因になりますので、ご注意ください。
- ・汚れ防止機能は、突発的な飲食物の付着や落書きをすぐ拭き取るには適していますが、少しずつ蓄積していくつこい汚れを除去することは困難です。できるだけ換気を行い、汚れが付かないよう心がけましょう。
- ・「汚れ防止」は、汚れが浸透しにくく落としやすい機能であり、汚れが付かない機能ではありません。
- ・汚れの種類や放置時間によって除去できない場合があります。

■施工費について

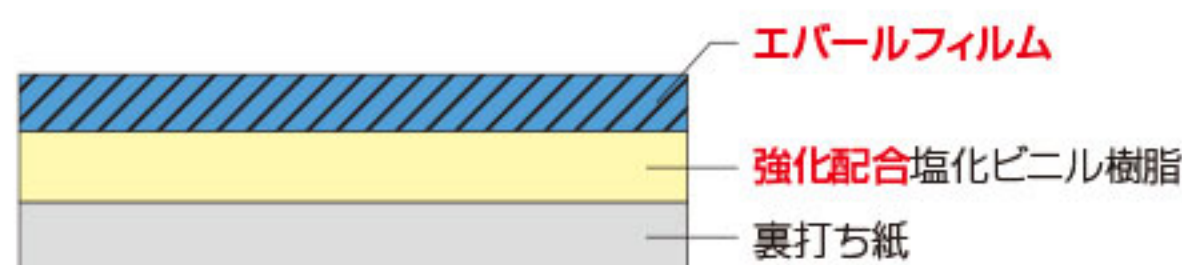
「消臭＋汚れ防止」壁紙は一般の壁紙に比べて施工難易度が高いため、施工費が若干割増になる場合があります。



スーパー強化＋汚れ防止(ペット対応)

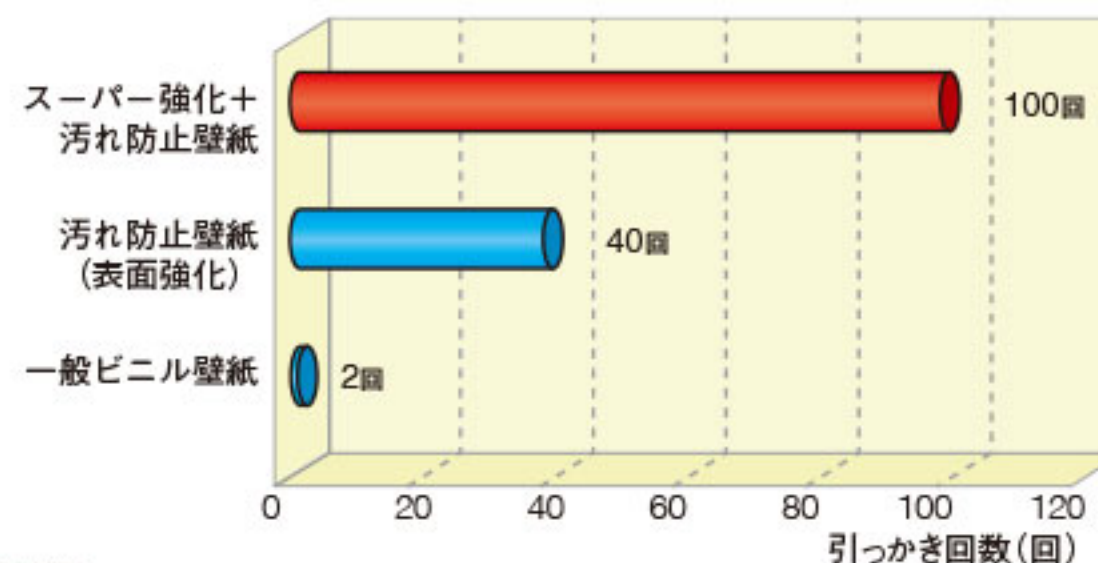
- 強化配合の壁紙表面にエパールフィルムをラミネートした、最もキズに強く、汚れも拭き取りやすい壁紙です。
- エパールフィルムのため、油汚れに特に強く、タバコのヤニ汚れや臭いも付着しにくい特長があります。
- 抗菌効果もありますので、清潔な環境づくりに最適です。

■スーパー強化＋汚れ防止壁紙の構造 (イメージ図)



■引っかかり強度試験結果

スーパー強化＋汚れ防止壁紙は、一般ビニル壁紙と比較して約50倍の引っかかり強度があります。



《試験方法》

表面強化壁紙規定と同じツメ、摩擦試験機を使用。ただし、ツメへの荷重は規定の2倍の400gに設定し、壁紙が破れて裏打ち紙が露出するまでの往復回数を測定(上限を100回に設定)しました。

■汚れ防止性能

●汚れ落ち比較

一般ビニル壁紙



スーパー強化＋汚れ防止壁紙



汚れの種類：クレヨン
除去剤：中性洗剤

●汚れ防止性能試験結果

汚れの種類	除去剤	スーパー強化＋汚れ防止壁紙	一般ビニル壁紙
コーヒー	水	◎	○～×
醤油	水	◎	○～×
水性サインペン	中性洗剤	○	△～×
クレヨン	中性洗剤	◎	△～×

《試験方法》

壁紙工業会制定「汚れ防止壁紙性能規定」に準拠。汚染物付着24時間経過後に除去剤で拭き取り、判定基準に従って目視で判定。

《判定基準》

- ◆4級以上を「汚れ防止」とする。
- ◎：(5級)汚れが残らない
- ：(4級)ほとんど汚れが残らない
- △：(3級)やや汚れが残る
- ×：(2級)かなり汚れが残る
- ××：(1級)汚れが濃く残る

■使用上のご注意

- ・引っかかり強度が非常に優れていますが、引っかかりキズによる破損が発生しないことを保証するものではありません。また、破損が生じない場合でも、引っかかりにより表面にツヤ差が生じる場合があります。
- ・汚れを拭き取る際は、かたく絞ったスポンジやタオルなどで水拭きしてください。落ちにくい場合は中性洗剤をご使用ください。歯ブラシでこすると効果的です。
- ・表面のフィルムが破損すると、その部分の汚れ防止機能は失われます。拭き取る場合はできるだけ柔らかい布やブラシなどをご使用ください。また、何度も拭き取ることによって目に見えない微細な傷がつき、次第に汚れ防止性能は低下していきます。
- ・油性マジックやボールペンにはアルコール(消毒用)が有効ですが、汚れを軽減することはできても完璧に落とすことは困難です。
- ・強い洗剤や溶剤によっては変色を起こすことがありますので、念のため、あらかじめ目立たないところで試してからにしましょう。
- ・洗剤の拭き残しは変色の原因になります。拭き掃除が終わり次第、必ずきれいな真水かぬるま湯で洗剤が残らないように拭き取ってください。
- ・張り合わせ部分に水が入るとハガレの原因になりますので、ご注意ください。
- ・汚れ防止機能は、突発的な飲食物の付着や落書きをすぐ拭き取るには適していますが、少しずつ蓄積していくしつこい汚れを除去することは困難です。できるだけ換気を行い、汚れが付かないよう心がけましょう。
- ・「汚れ防止」は、汚れが浸透しにくく落としやすい機能であり、汚れが付かない機能ではありません。
- ・汚れの種類や放置時間によって除去できない場合があります。

■施工費について

「スーパー強化＋汚れ防止」壁紙は一般ビニル壁紙に比べ施工難易度が高く、施工費が割増になる場合があります。



表面強化

●引っかきキズがつきにくい、強度に優れた壁紙です。

■表面強化性能試験結果

壁紙の種類	表面強化性能
表面強化壁紙	4 ～ 5級
一般ビニル壁紙	1 ～ 3級

《試験方法》

壁紙工業会制定「表面強化壁紙性能規定」に準拠。学振型摩擦試験機に指定のステンレス製ツメを取り付け、200gの荷重で壁紙表面を5往復し、表面の傷つき具合を評価する。

《判定基準》

◆4級以上を「表面強化」とする。

5級：一見視で特に変化が見られない

4級：多少表面傷が見られるが、比較的大きな表面層の破れ等は見られない

3級：表面層の破れが明確に見える

2級：表面が破けて紙等の裏打材が明らかに見える(長さ1cm未満)

1級：表面が破けて紙等の裏打材が明らかに見える(長さ1cm以上)

■使用上のご注意

キズに強い特長がありますが、引っかきなどのキズによる破損が発生しないことを保証するものではありません。また、破損が生じない場合でも、引っかきなどにより表面にツヤ差が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。



抗菌

●壁紙の表面に付着した細菌の繁殖を抑制します。

■抗菌性能試験結果

抗菌壁紙は、試験後の生菌数が「0.63未満」の性能を有しています。

試験菌	試験開始時の生菌数(個/cm ²)	試験後の生菌数(個/cm ²)
大腸菌	6.2×10 ³ ～ 2.5×10 ⁴	0.63未満
黄色ブドウ球菌	6.2×10 ³ ～ 2.5×10 ⁴	0.63未満

《試験方法》

壁紙工業会制定「抗菌壁紙性能規定」に準拠。

壁紙の表面に試験菌液を滴下し、温度35±1℃、湿度90%以上で24±1時間培養。その後の生菌数を測定。

■使用上のご注意

- ・抗菌性の壁紙は、これを使用することによって掃除の必要がなくなるというものではありません。より清潔に保つための手段とお考えください。
- ・抗菌性壁紙の抗菌効果は、壁紙に付着した細菌の増殖を抑制するものであり、感染を直接阻止するものではありません。



防かび

●かびの発生と繁殖を抑制します。

■防かび性能試験結果

防かび壁紙は、下表の「0」の性能を有しています。

菌系の発育	結果の表示
肉眼及び顕微鏡下でかびの発育は認められない	0
肉眼ではかびの発育が認められないが、顕微鏡下では明らかに確認できる	1
肉眼でかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の25%未満	2
肉眼でかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の25%以上～50%未満	3
菌系はよく発育し、発育部分の面積は試料の全面積の50%以上	4
菌系の発育は激しく、試料全面を覆っている	5

《試験方法》

壁紙工業会制定「防かび壁紙性能規定」に準拠。

かびを壁紙表面に付着させ、4週間培養。その後壁紙表面に生じたかびの発育状況を肉眼と顕微鏡で確認し判断する。

■使用上のご注意

- ・防かび壁紙だけでかびの発生を防ぐことは不可能です。かびは住宅の構造や生活環境に大きく影響を受けます。室内の湿度調整のため、常に換気を心がけてください。湿気を低く抑えることがかびを発生させない一番有効な手段です。
- ・なるべく発生させないような対策を講じる必要がありますが、すでに発生しているところに施工する場合は、完全に除菌、殺菌してから施工してください。中途半端な除菌では簡単にかびの再発生をゆるす結果となります。
- ・特に防かび性が要求される場所には、防かび性接着剤の使用が効果的です。

品番	機 能 性			お 要 め リ フ ォ ー ム	有効巾 (cm)	リピート		防 火 種 別	下地別の防火性能(直張り施工)					
	防 か び	抗 菌	その他機能性			↓タテ (cm)	→ヨコ (cm)		不燃材料 不燃石膏ボード	準不燃材料	金属板			
撥水トップコート+消臭														
FU-77701~77703	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77704~77707	○	○	トップコート 消臭 表面強化		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77708~77711	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77712~77716	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77717~77720	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77721~77724	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77725~77730	○	○	トップコート 消臭	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77731~77735	○	○	トップコート 消臭		92	48	92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77736~77739	○	○	トップコート 消臭	○	92		92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77740~77743	○	○	トップコート 消臭		92.5		15.4	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77744~77748	○	○	トップコート 消臭		92	32 無地貼可	46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77749~77754	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77755~77759	○	○	トップコート 消臭		92	32	46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77760~77764	○	○	トップコート 消臭	○	92.5	32	23.2	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77765~77772	○	○	トップコート 消臭		92	64	46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77773~77778	○	○	トップコート 消臭		92	64	46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77779~77783	○	○	トップコート 消臭		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77784~77786	○	○	トップコート 消臭 表面強化		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
撥水トップコート -和調-														
FU-77787~77789	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77790~77792	○		トップコート		92.5	32	30.9	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77793~77795	○		トップコート	○	92	31.4	92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77796~77801	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77802~77804	○		トップコート		92.5	32	30.8	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77805~77807	○		トップコート		92	32	30.7	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77808~77811	○		トップコート	○	92	32	46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
パターン														
FU-77812・77813	○			○	92.5	22	30.9	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77814・77815	○				92	32	46.1	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77816~77818	○				92.5	1.8	2.5	1-4	不燃 NM-3985	準不燃 QM-0820	不燃 NM-4111			
FU-77819~77821	○				92.5		2.1	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77822・77823	○		トップコート	○	92		46	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77824・77825	○		トップコート	○	92	21	30.7	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
撥水トップコート -リニューアル-														
FU-77826~77831	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77832・77833	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77834・77835	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77836・77837	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77838~77843	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77844~77848	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77849・77850	○		トップコート	○	92.5		92.5	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
撥水トップコート -ベーシック-														
FU-77851~77854	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77855~77858	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77859~77862	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77863~77866	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77867~77870	○		トップコート	○	92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77871~77873	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			
FU-77874・77875	○		トップコート		92			1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082			

価格表 全商品 ¥1,100／m 切売可(¥1,200／㎡)

■品質規格：JIS・SV・F★★★★ ■材料区分：塩化ビニル系樹脂壁紙

品番	機 能 性			お契め リフォーム	有効巾 (cm)	リピート		防火種別	下地別の防火性能(直張り施工)			
	防かび	抗菌	その他機能性			↓タテ (cm)	↔ヨコ (cm)		不燃材料 不燃石膏ボード	準不燃材料	金属板	
消臭+汚れ防止												
FU-77876	○	○	汚れ防止 消臭	○	92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77877	○	○	汚れ防止 消臭	○	92		0.6	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77878・77879	○	○	汚れ防止 消臭		92.5		5.2	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77880・77881	○	○	汚れ防止 消臭		92	33.4	30.8	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77882・77883	○	○	汚れ防止 消臭		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77884・77885	○	○	汚れ防止 消臭		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77886・77887	○	○	汚れ防止 消臭	○	92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77888・77889	○	○	汚れ防止 消臭		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77890～77894	○	○	汚れ防止 消臭	○	92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77895・77896	○	○	汚れ防止 消臭		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77897～77899	○	○	汚れ防止 消臭		92.5	64.2	92.5	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77900～77905	○	○	汚れ防止 消臭		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77906～77910	○	○	汚れ防止 消臭	○	92.5	35.5	46.3	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
スーパー強化+汚れ防止												
FU-77911～77924	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77925～77930	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77931・77932	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92	32	23	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77933・77934	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92			1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77935・77936	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92		11.6	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77937・77938	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92	93	92	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
FU-77939・77940	○	○	スーパー強化 汚れ防止		92	93	46	1-6	不燃 NM-3992	準不燃 QM-0823		
木目												
FU-77941	○		トップコート 表面強化		92	70	92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77942・77943	○		表面強化		93	125	93	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77944	○				92	124	92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77945	○		トップコート 表面強化		92.5	70	92.5	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77946	○		表面強化		92.5	78	92.5	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77947・77948	○				93	125	93	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	
FU-77949・77950	○		表面強化		92	93	92	1-4	不燃 NM-3991	準不燃 QM-0822	不燃 NM-4082	

※表示価格は商品価格であり、施工代や消費税は含みません。物価情勢により、やむを得ず価格の改定を行なう場合がありますので、ご了承ください。

品番対照表
旧⇒新

当品番対照表は、旧不燃⇒新不燃に継続収録している品番のみを掲載しています。
見本帳発行の度に品番対照は毎年改訂されますので、最新版はリリカラホームページをご参照ください。
最新の対照表の掲載場所……リリカラホームページ>インテリア事業>資料ダウンロード>対照表

旧 不燃認定	新 不燃認定	旧 不燃認定	新 不燃認定	旧 不燃認定	新 不燃認定	旧 不燃認定	新 不燃認定
FU-77411	FU-77736	FU-77471	FU-77893	FU-77538	FU-77865	FU-77561	FU-77859
FU-77412	FU-77737	FU-77472	FU-77894	FU-77540	FU-77867	FU-77563	FU-77860
FU-77414	FU-77738	FU-77476	FU-77888	FU-77544	FU-77870	FU-77564	FU-77861
FU-77415	FU-77708	FU-77477	FU-77889	FU-77548	FU-77874	FU-77565	FU-77862
FU-77416	FU-77709	FU-77482	FU-77895	FU-77549	FU-77875	FU-77619	FU-77819
FU-77417	FU-77710	FU-77484	FU-77896	FU-77551	FU-77851	FU-77620	FU-77820
FU-77418	FU-77711	FU-77514	FU-77935	FU-77552	FU-77852	FU-77627	FU-77814
FU-77424	FU-77705	FU-77515	FU-77936	FU-77553	FU-77853	FU-77642	FU-77942
FU-77425	FU-77706	FU-77518	FU-77911	FU-77554	FU-77854	FU-77643	FU-77943
FU-77426	FU-77707	FU-77519	FU-77916	FU-77556	FU-77855	FU-77644	FU-77944
FU-77441	FU-77784	FU-77535	FU-77863	FU-77557	FU-77856	FU-77645	FU-77945
FU-77443	FU-77786	FU-77537	FU-77866	FU-77558	FU-77857		

取り扱い上のご注意

選択上のご注意

1. 防火性について

建築物の内装仕上げは、建築基準法により防火上の基準が定められており、建築物の用途や規模・構造に応じて防火材料の使用が義務づけられています。壁紙の防火性能は、下地基材や施工方法との組合せによって決まりますので、事前に必ずご確認ください。

2. 見本・サンプル・写真について

製造ロットの違いにより、見本やサンプル帳と実際の商品が若干異なる場合があります。ご了承ください。

3. 商品の仕様変更・供給について

改良その他の事情により、予告なく仕様変更を行なうことがあります。また、生産中止などにより供給不能となる場合があります。あらかじめご了承ください。

4. 施工費について

商品や現場の状況によって施工費が割増になる場合があります。「汚れ防止」「表面強化」「製品厚が薄い商品」「表面がフラットな商品」など、下地処理や施工に手間がかかる商品群です。あらかじめご確認の上、商品選択をお願い致します。

5. 壁紙商品の特性について

ビニル壁紙などは、リピート表示のない商品でも基本的にある単位の同じ柄の繰り返しで出来ています。特にエンボス加工品は、見る角度や光の当たり方によって微妙な凹凸の繰り返しが目立つ場合があります。これはエンボスロール製造上の特徴であり、現在の技術では完全に防ぐことはできません。また、特にフラットな商品や横方向のテクスチャーの商品などはジョイント部が比較的に目立ちやすい傾向にあります。これは塗装とは異なり、つなぎ合わせて施工する壁紙である限り避けることのできない商品特性です。あらかじめご了承ください。

施工上のご注意

1. ロット違い商品について

ロット違いの商品には、色差などが生じる場合があります。同一ロット品をご使用ください。できれば一巻きの至近の箇所同士を張り合わせてください。

2. 保管はタテ置きで

商品はタテ置きで保管してください。ヨコ積みや井桁積みは置き跡がつきやすく、光沢差やエンボスつぶれの原因となります。

下地の調整

1. 下地と同色のパテを使用

必ず下地と同色のパテをご使用ください。下地と異なる色のパテを使用しますと、施工後、下地の色が透けて見える場合があります。また、下地からの影響を防ぐためにも文字や汚れはきれいに処理してください。

2. きれいな仕上がりは平滑な下地から

施工後の不陸を防ぐため、下地は平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈め、サビ止めをしてください。

3. 下地や状況に応じたシーラー処理を

ペンキ・コンクリート・モルタル・木質系下地の場合は、それぞれ専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。特にベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間がたつとシミや変色の原因になります。シーラーは接着不良や変色を防ぎ、リフォーム時に剥がしやすくなります。

4. 下地は乾燥させてから

コンクリートやモルタルなどの湿式下地、およびシーラー、パテを施した箇所は十分に乾燥（目安として水分率11%以下）してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビが発生することがあります。

5. オイルステインなどの下地は避ける

オイルステイン、ニスなどを使用している下地や近接した場所への施工は避けてください。変色の原因になります。

6. カビが発生している場合

張り替え時、下地にカビが発生している場合は、十分にカビを殺菌し、乾燥させてから施工してください。

7. 浮いた裏打紙の処理

張り替え時、下地面に残った裏打紙（残紙）は剥がしてから施工してください。残紙が浮いたまま施工しますと目隙などの原因になりますのでご注意ください。

施工糊と施工環境について

1. 施工環境に合わせた準備を

冬期など低温時には壁紙が硬くなり施工しにくくなる傾向があります。状況に合わせて接着剤の配合やうませ時間を調整したり、部屋を暖めるなどの配慮をお願いします。特に5℃以下の環境では糊の接着力が弱く、施工不良の原因になりますので、施工糊の注意事項を必ず守ってください。

2. 糊付後の注意点

壁紙の品種や室内環境に応じて、適切なオープンタイムを取ってください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。また、壁紙をきつく折り畳んだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生し、元に戻らない場合があります。

張り付け

1. 有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含みません。有効巾を超えた使用は、左右色違いの原因となります。

2. 柄合わせマークの確認

柄合わせを要する商品は、柄合わせマーク同士を目安に、柄を確認しながら施工してください。柄合わせの必要な商品は、サンプル帳に「リピート」を表示しています。特にステップ柄合わせは、一般的な平行合わせとは合わせ方が異なりますので、ご注意ください。（商品特性上、左右の柄合わせマーク位置の僅かなズレや柄合わせマークがない場合があります。ご了承ください。）

3. ジョイント位置について

ジョイント位置は、端部同士で施工してください。両端部と中央部では、色差が生じる場合があります。また、張り残しや部分補修に残材を使う場合は、色違いが起きやすいので天地・左右を十分にご確認の上、施工してください。窓の上下など一部だけを横張りにしたり、他の部分と不調和なはぎ合わせをすると、色違いを生じますので、必ず同じ方向で張ってください。

4. ジョイント部のカットについて

ジョイント部をカットする際は、目隙を防ぐため、必ずカッターの刃をまっすぐに入れてください。また、地べらを使った重ね切りは避け、定規をご使用ください。地べらを使うと切り口が斜めになり目隙の原因になります。

5. 三巾ほど施工した時点で状態を確認

商品検査には十分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で問題のないことをご確認ください。明らかに製品に欠陥があると判断された場合には、ただちに作業を中断し当社までご連絡頂けますようお願い申し上げます。三巾以降相当量の作業を進行した場合、施工費賠償の請求、商品の返品等は原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

6. 入隅の処理は建物の構造に適した方法を

ボードやパネル下地の継ぎ目をまたいで壁紙を施工すると、入隅にフクレやよじれ・割れなどが発生する場合があります。これは、建物の構造上継ぎ目が振動の逃げ場になっているためで、避けることは出来ません。ましてや下地の動きを壁紙で防ぐことは不可能です。できるだけ入隅で壁紙をジョイントすることをおすすめします。

消臭+汚れ防止(FU-77876～77910)の注意点

壁紙表面に、ポリプロピレン製の汚れ防止フィルムをラミネートした商品です。一般ビニルに比べやや硬くカールしやすい傾向があり、寒冷時には出入隅部の収まりが悪くなることがあります。フィルムによるツヤがありますので、光の加減で下地が見えやすくなる天井には不向きです。あらかじめご了承ください。

●低温時は室内を暖めて

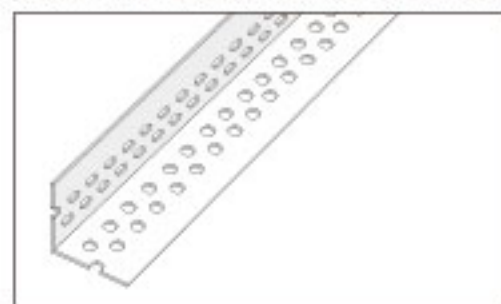
5℃以下の環境では糊の接着力が弱くなり、フクレや施工不良の原因となります。また、壁紙自体も硬くなりますので、施工効率下がります。できるだけ室内を暖めて、壁紙を馴染ませ柔らかくしてから施工してください。

●モルタル下地にはシーラー処理を

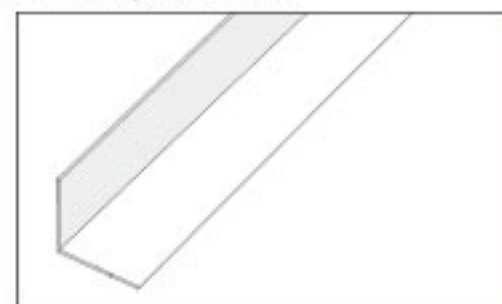
アクによる変色やフクレを防ぐため、必ずシーラー処理を行なってください。特に低温時にはフクレがおきやすくなりますのでご注意ください。

●下地コーナー材は穴あきタイプを

下地コーナー材は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。



穴あきコーナー材



一般的なコーナー材

●張り付け時のカール癖

一般ビニル壁紙に比べやや硬くカール癖がつきやすい傾向があります。特に巻き芯に近い部分や寒冷時には、材料を逆巻きにするなどカール癖をとってから施工してください。収まりが悪い場合は、ジョイント部や出入隅部にエチレン酢ビ系ボンドを原液で捨て糊するなどの処置を施してください。

スーパー強化+汚れ防止(FU-77911～77940)の注意点

強化配合の塩ビ樹脂層に、汚れ防止エパールフィルムをラミネートした商品です。エアーが抜けにくく、特に低温時にはフクレが生じやすくなりますので注意が必要です。フラットでフィルムによるツヤがあるため、光の加減で下地が見えやすくなる天井には不向きです。あらかじめご了承ください。特に硬い品質が特徴の壁紙ですので、「消臭+汚れ防止壁紙」の施工要領に加えて以下の点にもご配慮ください。

●モルタル下地にはご注意を

基本的にモルタル下地には向きませんが、施工する際には必ずシーラー処理を行ってください。フクレ回避に有効です。

●冬季・寒冷地では室温15℃に暖めて

寒い時期には、壁紙が余計硬くなり施工しにくくなります。室温を15℃以上に上げて施工してください。

養生

1. 粘着性の強い養生テープは使用しない

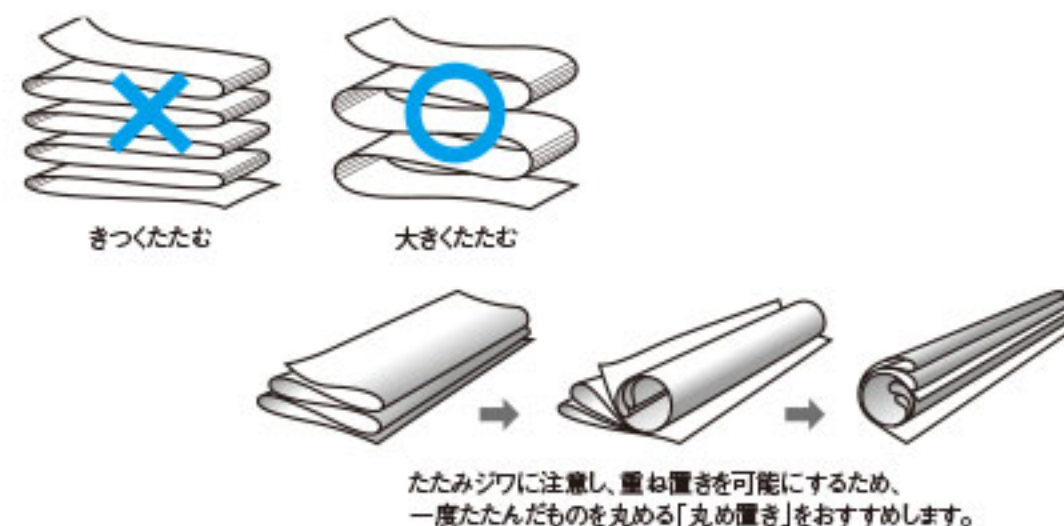
粘着性の強いマスキングテープの使用は避けてください。テープの粘着剤が壁紙に固着し、変色や汚れの原因になります。また、テープを剥がす時に壁紙表面が破損する恐れがあります。

●接着剤とオープンタイム

接着剤は、濃い目(6～7割希釈)のものにエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度混合してください。接着剤塗布後はうませ時間を20～30分程度とってください。寒冷時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。

●糊付け後のたたみ方、養生時のポイント

接着剤塗布後は大きくたたみ、上積みをしてください。フィルムが折れてたたみジワが発生する場合があります。



●なで付け注意

特に、モルタル下地ではプラスチック製のヘラを使用し、ていねいに繰り返しエア抜きを行ってください。

●糊の拭き残し

施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にきれいなタオルなどで拭き取ってください。

●接着剤とオープンタイム

接着剤は、接着強度が高く濃いものを少なめに塗布できる原液タイプがおすすめです。接着剤塗布後、20～30分程度うませ時間とってください。寒冷時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。

●出隅・入隅は、ボンド捨て糊がおすすめ

出隅・入隅など角の出にくい場合は、下地側にエチレン酢ビ系のボンドを捨て糊するなどの処置を行ってください。また、出隅の角をしっかりと出すためには、角部分の壁紙表面からきれいな布で、角をしっかりと押さえながら擦ってください。

●なで付けは、プラスチック製のヘラがおすすめ

硬い壁紙のため、柔らかい撫で刷毛では圧着やエア抜きが困難です。プラスチック製のヘラを使って、ていねいに繰り返しエア抜きを行ってください。

廃棄上のご注意

1. 残材を焼却しない

ビニル壁紙の残材やサンプル帳を焼却しないでください。燃やすと塩化水素ガスなどが発生し、目・粘膜などを刺激しますのでご注意ください。

2. 壁紙の残材は適切な廃棄処理を

壁紙の残材やカタログを処理する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。少量の残材を一般廃棄物(家庭ゴミ)として処理する場合は、市町村条例に基づき処分してください。なお、業者の方が廃棄する場合には産業廃棄物となりますのでご注意ください。

維持管理上のご注意

壁紙は色や柄などの意匠性を重視した化粧仕上げ材ですから、コンクリートなど他の建材と異なり、10～20年といった長期間に渡る維持は期待できません。したがって、ある程度の期間はメンテナンスを行ない、次いで張り替えるという使い方が、壁紙の価値を活かす最適な方法です。壁紙は室内のホコリや油汚れ・手垢などにより自然と徐々に汚れていきます。仕上りの美しさを維持していただくためにも、使用上の注意とメンテナンスにご配慮ください。壁紙の耐用年数は、使い方次第で大きく異なってくるものです。

一般的な注意事項

1. 入居後は、まず換気を

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行なってください。

2. 直射日光からの保護

直射日光が当たると、紫外線により色褪せがしやすくなります。部屋を使用していないときは、カーテンやブラインドを活用し、直射日光を避けるよう心がけてください。

3. 高温・熱風を避ける

ストーブなど暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。

4. 粘着テープを貼らない

粘着テープ（セロハンテープやガムテープなど）を壁紙に貼らないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損することがあります。

ホコリや汚れ

ホコリは、時々ハタキをかけたり電気掃除機などで吸い取ってください。不要になったストッキングを細長い棒に巻きつけて、静電気ですり取ります。ホコリを吸い取る方法も効果的です。ホコリや汚れを放置しておきますと、湿気や油分を吸って取りにくくなりますので、長時間放置しないようにしてください。汚れには多種多様なものがあり、種類や放置時間によって除去できない場合があります。

●汚れが付着したら《一般ビニル壁紙の場合》

ビニル製の壁紙は、一般的に吸湿性や通気性がほとんどないので、シミやホコリには強く、手垢や油汚れには比較的弱いというのが特徴です。数ある壁紙の素材の中でもメンテナンス性に優れた部類にあり、軽い汚れなら水拭きや洗剤で落とすことができます。但し、汚れ防止壁紙と異なり、クレヨンや水性ペンなどの頑固な汚れは落とせません。

飲食物や調味料などの水汚れは、直ちにたたく絞ったスポンジやタオルで汚れを吸い取るように拭き取ってください。最初から強くこすると、汚れが染み込んだり広がる場合がありますので注意しましょう。落ちにくい場合には中性洗剤をご使用ください。出来るだけ早急に対処することが汚れを落とすコツです。拭き掃除が終わりましたら、必ず真水かぬるま湯で洗剤が残らないようきれいに拭き取ってください。洗剤の拭き残しは変色の原因になります。

※強い洗剤やシンナーなどの有機溶剤は、変色や表面破損の原因になりますので使用しないでください。

※張り合わせ部分に水が入ると剥がれの原因になりますのでご注意ください。

※壁紙を拭く場合はあまり強くこすらないでください。壁紙表面が破損することがあります。

部分的な剥がれのメンテナンス

時間の経過と共に部分的な剥がれが生じる場合があります。きれいに補修するコツはできるだけ早く対処することです。剥がれてから時間が経ったものや、劣化して固くなったものは補修が困難になります。剥がれが広がる前に下地の汚れを取り去り、木工用水性接着剤など強めの接着剤を壁紙裏面に塗り付け、十分圧着してください。特に部屋のコーナー部、サッシや水のかかりやすい洗面台の周囲、通気の悪い箇所などは注意しておきましょう。このような場所には、あらかじめコーキングボンドで枠回りをコーキングしておけば、ある程度剥がれを防ぐことができます。

カビ

カビは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーや喘息など、病気の原因になることがありますので注意が必要です。カビの発生や繁殖を抑制する「防かび」壁紙もありますが、壁紙単体でカビの発生を防ぐことは不可能です。カビは住宅の構造や生活環境に大きく影響を受けます。常に換気を心がけ、通風を良くし、湿度の上昇をおさえてください。

●カビが発生したら…

カビが発生してしまった場合は、ハウスクリーニング会社などにご相談ください。

5. 薬品や化粧品などを付着させない

スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品を壁紙に吹き付けしないでください。壁紙が変色することがあります。

6. 家具を壁面に密着させない

家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙の間は空間の余裕をとってください。空間を設けることは、変色だけでなく結露やカビの予防にもなります。

7. 室内空気の汚れについて

室内空気の汚れ（ホコリ、タバコ、キッチンからの油煙など）は、壁紙を短時間で黄変させてしまいます。特に壁紙のジョイント部は、壁裏面との通気口となりやすく、壁紙表面と比較し空気の流れが集中するため汚れが目立つ場合があります。できるだけ室内の換気を心がけてください。

●汚れが付着したら《汚れ防止壁紙の場合》

「消臭+汚れ防止」「スーパー強化+汚れ防止」壁紙は、表面のフィルム加工により壁紙内部に汚れが浸透しにくく、汚れが拭き取りやすくなっています。日常生活の一般的な汚れ・飲食物の汚れなら水や中性洗剤で落とせます。

日常生活の汚れは、かたく絞ったスポンジやタオルで水拭きしてください。落ちにくい場合は中性洗剤をご使用ください。歯ブラシでこするとより効果的です。

強い洗剤や溶剤の種類によっては変色を起こすことがありますので、念のためあらかじめ目立たないところで試してからにしましょう。壁紙表面に残った洗剤は変色の原因になりますので、真水かぬるま湯できれいに拭き取ってください。

※張り合わせ部分に水が入ると剥がれの原因になりますのでご注意ください。

※表面のフィルムが破損すると、その部分の汚れ防止機能は失われます。拭き取る場合はできるだけ柔らかい布やブラシなどをご使用ください。また、何度も拭き取ることによって目に見えない微細な傷がつき、次第に汚れ防止性能は低下していきます。あらかじめご了承ください。

※汚れ防止機能は、突発的な飲食物の付着や落書きをすぐ拭き取るには適していませんが、タバコのヤニのように少しずつ蓄積していくつこい汚れを完全に除去することは困難です。できるだけ換気を行ない、汚れが付かないよう心がけましょう。

結露

結露や過度の湿気は、シミ・剥がれ・カビの原因となりますので、室内の換気や湿度調整を心がけてください。

●換気・除湿を行なう

常に換気を心がけ、発生した水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や料理時の水蒸気などは換気扇を利用して排出してください。除湿器、吸湿剤などを活用し、余分な水蒸気を除去することも有効です。

●通気をよくする

家具裏などの隙間に余裕を取り、家全体の空気の流れをよくする工夫をしてください。

●冬の結露について

室内と外気の温度差が激しい冬は結露しやすい時期です。加湿器を使用した後は特に結露しやすくなります。換気や除湿に十分に注意しましょう。外に面した室内の壁が異常に結露する場合は、断熱材の不足や不備、建物自体の構造の問題が考えられますので、早めに対処しましょう。

塩化ビニル製壁紙の「∞PVC」マーク表示について

平成13年4月1日、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（資源有効利用促進法）が施行され、従来の原材料としての再利用（リサイクル）に加えて、新たに廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品などの再利用（リユース）対策が追加されました。今回の施行により、塩化ビニル製の建設資材は解体時の分別を容易にするため「∞PVC」マークを表示することが義務づけられました。

《表示内容》

「∞PVC」マークは、壁紙裏面の面積1平方メートルごとに1個以上表示します。

- ①. 壁紙裏面の表示は、目視で確認できます。
- ②. 表示は壁紙表面への色の影響を抑えるため、比較的淡いインクを使用しています。
- ③. 剥がした壁紙の裏面にブラックライトを照射させると、表示マークの確認が容易です。

お願い

平成9年12月から「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃棄物処理法）が改正されましたので、新見本帳発行に伴い不要になった見本帳につきましても、産業廃棄物としての取り扱いが必要となりました。従いまして、しかるべき資格を有する産業廃棄物処理業者に直接廃棄を委託して頂きますようお願い申し上げます。当業界では、従来同様廃棄物の適切な処理を更に推進していく所存です。貴社の御理解と御協力をお願い申し上げます。

（一社）日本インテリアファブリックス協会 リリカラ株式会社